



三重県保健環境研究所

みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第 71 号(2018 年 12 月)

～風しんが流行しています～

はじめに

2018 年 12 月現在、関東地方を中心に風しんが流行しています。それに伴い三重県でも患者数が増加しています。

風しんとは

風しんは風しんウイルスの感染により起こり、発熱、発しん、リンパ節の腫れの 3つを特徴とする急性感染症です。患者の鼻や口からの飛沫により感染し、14～21 日の潜伏期間を経て発症します。感染者の 15～30%は症状の現れない不顕性感染といわれています。

症状は比較的軽く、予後は良好な疾患ですが、まれに脳炎などの合併症を引き起こします。また大人がかかった場合は子どもに比べて発熱や発しんの期間が長くなるといわれています。一方、風しんに感受性のある妊娠初期の女性が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群（CRS）と総称される先天性心疾患、難聴、白内障などの障害を持つ子どもが生まれる可能性があります。このことから風しんは、定期予防接種とによって法律によってワクチンの接種が勧められている重要な感染症になります。

風しんの流行状況

2008 年に風しんが全数把握疾患になって以降、2012～2013 年にかけて全国的な風しんの流行が起こりました。その後、風しんの患者数は年々減少していましたが、2018 年に入って再び増加し、三重県でも 23 人の患者が報告されています(表 1 参照)。

表 1 2008 年以降の風疹・CRS 患者報告数

年	三重県		全国	
	風しん	CRS	風しん	CRS
2008	5	0	293	0
2009	2	0	147	2
2010	1	0	87	0
2011	7	0	378	1
2012	58	0	2,386	4
2013	99	2	14,344	32
2014	8	0	319	9
2015	7	0	163	0
2016	1	0	126	0
2017	1	0	93	0
2018	23 ¹⁾	0	2,586 ²⁾	0

1)2018 年 12 月 17 日現在、 2)2018 年 12 月 12 日現在

この 23 人の内訳は、男性が 19 人（82.6%）で女性が 4 人（17.4%）でした。2012～2013 年と 2018 年の流行の中心は、30～50 代の男性といわれ、三重県でも 2018 年は 18 人（78.3%）がそれに該当しました。

30～50 代の男性は風しんの定期予防接種を受ける機会がなかった世代で、多くの方が風しんの抗体（風しんに対する抵抗力）を持っていません。このことは毎年実施されている流行予測調査の結果を見ると明らかで、30～50 代の男性の抗体保有率が低いことがわかります（図 1 の赤い点線で囲った部分）。

CRS の発生状況

1999 年に CRS が全数把握疾患になって以降、CRS の報告数が最も多かったのは 2013

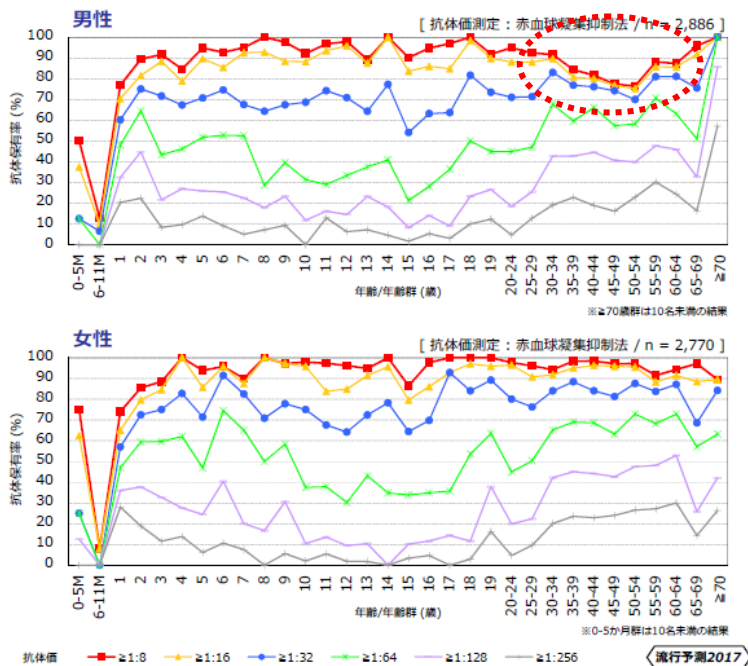


図1 風しん抗体保有率 (2017年度感染症流行予測調査事業)
国立感染症研究所のホームページより引用

年でした。この年、三重県でも2人のCRS患者が報告されました(表1参照)。このことからCRSの発生には風しんの流行が深く関わっていることがわかります。2015年以降は現在までCRSの報告はありませんが、今回の流行によりCRSが発生しないよう風しんの終息に向けた対策が求められます。

風しんを予防するためには

風しんを予防するためには、予防接種(ワクチン)が最も有効な方法です。日本では1歳児(第1期)と小学校入学1年前の幼児(第2期)に定期予防接種として麻疹風しんの混合ワクチンを接種しています。

かつてCRS予防のため、予防接種の対象は女子中学生に限られていました。しかしそれだけでは風しんの流行を抑えることができずCRSの予防には不十分であることが

わかりました。そこでCRSの予防に加えて風しんの予防とまん延防止を目的として、1995年から予防接種の対象が男女幼児へと変更されました。

風しんの排除に向けて

日本では早期にCRSの発生をなくすとともに、東京オリンピックが開催される2020年度までに風しんを国内から排除するという目標を掲げ、2014年に「風しんに関する特定感染症予防指針(以下、指針)」が策定され、様々な取組みが行われています。

現在流行している風しんの拡大を防止するためには、先に紹介した風しんに対する抗体を持っていない30~50代の男性を早急に減少させることが必要になります。そこで厚生労働省は2019~2021年度末までの約3年間かけて、これまで風しんの定期接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日~昭和54年4月1日生まれの男性を対象に、風しんの抗体検査を実施した上で、定期接種を行うことを発表しましたので、対象の方は受診をお願いします。

私たちの役割

2017年に指針が改正され、地方衛生研究所において原則として風しん患者の全例にウイルス遺伝子検査を実施することになりました。

三重県では医療機関から風しんの発生届けがあった場合、保健所によって情報収集と検体の採取が行われ、ただちに当研究所に検体が搬入されます。私たちは迅速かつ正確なウイルス遺伝子検査を実施することで、風しんの感染拡大阻止に貢献しています。

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

Eメールアドレス hokan@pref.mie.jp ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>